

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171501083), 法人名 (有限会社 優心), 事業所名 (認知症高齢者グループホームゆうしん Aユニット), 所在地 (北斗市開発225番地の8), 自己評価作成日 (平成30年1月8日), 評価結果市町村受理日 (平成30年3月22日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に隣接している藤崎整形クリニックとの医療連携を図り、医師や看護師による日々の健康チェック、状態変化時の早期対応を徹底し、健康に留意した生活を送ることが出来ます。リハビリ通院と往診により身体機能の維持、向上を図り、自分でできることを継続し、より自立した日常生活が送れるよう支援しています。入居者や家族とのコミュニケーションを大切に、一人ひとりの思いを理解することでその人らしく、意欲や楽しみをもち、安心した生活が送れるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2017\_02\_2\_kani=true&JigvosvoCd=0171501083-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年3月7日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して12年目の「グループホームゆうしん」は大野新道(国道227号線)沿いに位置している。当事業所の最大の特徴は、隣接してある運営法人の医療機関の医師・看護師・専門スタッフが日々来所し、健康管理や無理のない運動療法等を取り入れ、身体機能が低下しないよう機能回復訓練を行っており、利用者と家族は安心した毎日を送っている。平屋造りの建物は事務所を中心に左右対称のユニットになっており、明るく広々とした空間である。町内会との関係も良好で、町内会行事には利用者と職員と一緒に参加し交流を深めている。中学生の体験学習や保育園児の来訪、ボランティアの受け入れも多く、利用者と一緒に賑やかな楽しい時間を過ごしている。入居者と職員が顔なじみという出会いもあり、家族のような暖かな雰囲気の中で、一人ひとりの個性を尊重し、地域住民との交流を図りながら、居心地よく過ごせるように寄り添い、利用者は地域の一員として日々その人らしく笑顔のある、そして穏やかな生活を送っている。

Table V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します. Columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 with various service outcome descriptions and evaluation results.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示し、また職員のネームプレート裏にも記載し意識してサービスを提供している。	管理者と職員は地域密着型サービスの意義を理解し、法人理念を事業所内や職員のネームプレート裏に記載し、「家族のような暖かな雰囲気の中で」という理念を共有し日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、夏祭りや観桜会に参加。行事での保育園やボランティアの参加も恒例となり、中学生の職業体験学習の受け入れを行っている。避難訓練に近隣の方も参加している。	町内会行事への参加や神社のお祭り、保育園児やボランティアの来訪、中学生の体験学習の受け入れも積極的である。公民館での「ふまねっと」など出来るだけ参加し交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、相談に随時対応している。 運営推進会議にて、グループホームの役割や入居者に対する支援方法等を地域の方々へ伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。町内会、市の担当者、地域包括支援センターの参加があり、事業所の活動内容の報告や話し合いを行っている。	運営推進会議は市役所・地域包括・町内会・家族の参加で定期的開催している。活動及び行事報告とその時々議題についても話し合い意見交換を行いアドバイスを貰いサービスの向上に活かしている。	家族に事業所の現状の取り組みや報告をし、質問や意見・要望を受け、双方向的な会議となるよう、家族宅に議事録を送付することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは電話などで連絡を取り合い、相談やアドバイスを受けている。 地域包括支援センターと連絡を取り合い、入居状況や入居希望の情報交換を行っている。	市担当者とは更新時や困難事例が生じた時には相談しアドバイスを貰っている。入居状況などの情報交換など常に連携を図り協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを職員がすぐに見られる場所に置き、職員が意識し日々のケアに取り組んでいる。契約の際に、事業所で行っている取り組みについて説明をしている。	「身体拘束廃止に関するマニュアル」は職員がいつでも閲覧できる場所に保管している。管理者と職員はミーティングで日々のケアを確認し、又、日頃から言葉づかいやしぐさなど注意し合い徹底理解に努めケアに活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを職員がすぐに見られる場所に置き、職員が意識し日々のケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を職員が見られる場所に置いてある。職員が研修に参加し、必要な場合は活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明、運営規定にて説明し、納得を得てから契約を結んでいる。解約時は意向を確認し、本人の状態にあった今後の暮らし方を検討し、納得した上で退居している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族と話し、不安なことや意見等を話しやすいように関わりをもっている。事務室前に意見箱を設置し、意見ができるようにしている。	家族の面会時には出来るだけ話し易い雰囲気づくりに留意し、要望や意見を聞くようにしている。どんなことでも出された意見は迅速に検討し、職員は共有し、利用者主体の運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や朝の送りにて意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者は職員の日々の関わりの中での気づきやアイデアを聞き、出された意見はミーティング時に検討し、全職員で共有し反映させている。個人面談として設けていないが、その都度管理者は職員の意見を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制や休日希望の相談に随時応じている。健康面についての相談があった場合には、隣接している藤崎整形外科クリニックの受診や相談を行い、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勤務評価を行い、一人ひとりの能力に合った研修計画を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加できるよう計画を立てており、ケアカフェの参加等で同業者と交流する機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人、家族と面談し情報収集を行っている。本人の訴えを傾聴し、安心して暮らしていけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず訪問か、来設して頂き、見学、相談を行っている。家族等が困っている事について訴えに傾聴し、安心できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、情報収集にて状況を把握し必要な支援を行っている。必要であれば他事業所と相談する場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い理解し合えるよう、日々の生活の中でコミュニケーションを図り、共に暮らす関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時、ホーム便り等で近況報告し、家族も本人の状態を把握した上で一緒に支援方法を検討するようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	情報収集にて、馴染みの場所を把握し、ドライブや散歩などで出かけたり家族との外出、外泊の支援を行っている。親戚や友人が時々面会に来られ、ホーム内や居室内で談話され一緒に過ごす時間がある。	隣接のクリニックの受診後に立ち寄ってくれる友人もいる。「ふるさと訪問」と名づけて以前住んでいた家や場所に職員対応で出向き、近所の人との出会いを楽しんだり、家族の協力での外泊など、今までの関係を断ち切らないように継続的な支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中で入居者同士の関係を把握し、入居者同士が関わり合えるような環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は必要に応じて家族や他サービス事業所と連絡をとり、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集、アセスメントを十分に行う事で一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	管理者と職員は利用者一人ひとりの日々の関わりの中で細やかな感情の表出を見逃さず、思いや意向の把握に努めている。家族からの情報も得ながら職員間で共有し、日々のケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入居前に関わり合った他事業所から情報収集をし、生活歴やこれまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々一人ひとりと関わる中での気づきを記録し、変化が見られた際は職員間で情報交換し共有している。個別記録、バイタル表排泄チェック表を記載し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認し、介護計画に取り入れている。定期的にカンファレンス、モニタリングを行い、職員間の話し合いで出た意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人と家族の意向を取り入れ、日々の生活の中での気づきやアイデアを話し合い、介護計画を作成している。アセスメントとモニタリングを繰り返し、臨機応変に見直して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に介護計画の実施状況を記録している。日々の様子や会話の内容、ケアの工夫等を記録し、職員間で情報共有している。介護計画の見直しの際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じた話し合いを行い、その時に合った支援方法を検討し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際に行政や町内会の方から情報収集し、地域資源を把握して活用できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を確認し、かかりつけ医師を決定している。従来のかかりつけ医師を継続することもあり、本人の状態や家族と相談し決めている。	従来のかかりつけ医の受診は家族と職員対応での受診もある。協力医の往診は2週に1回と、隣接の病院から毎日看護師の巡回がある。24時間体制も出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の藤崎整形外科クリニックの看護師と医療連携を図り、看護師に日々健康状態の報告を行い、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会に伺っている。病院関係者との連絡も定期的に行い、相談や状態の把握に努めている。隣接の藤崎整形外科の医師や看護師にも都度報告している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた指針を作成している。入居契約時に家族に重度化した際の意向の確認をし、職員間で共有している。	入居時に本人と家族に重度化や終末期に関する事業所の指針を説明し同意を得ている。状況に応じて家族の意向を繰り返し確認し、方針を共有して納得した最期を迎えられるよう全職員で取り組み支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを職員がすぐに見られる場所に置いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。日中、夜間を想定した訓練を、近隣の方も参加し実施している。緊急連絡網を作成しており、近隣の店舗や町内会の方も入り、協力体制を整えている。	年2回日中と夜間想定の訓練を行っている。消防署の協力を得ながら町内会や近隣のガソリンスタンド・コンビニ店の協力も得ており、協力体制は築かれている。避難場所も確保しており、備蓄についても用意してある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けや関わり方を職員間で共有し、対応している。排泄、入浴、着替え等の声掛けには特に配慮し対応している。	一人ひとりの人格を大切に個性として尊重し、尊厳を損なわない話しかけや言葉がけをしている。個人情報についても十分に理解し、取り扱いと管理には徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で思いや希望を表出できるように、信頼関係を築くことに努めている。言動や表情等から思いを汲み取る等、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースではなく、一人ひとりのペースに合わせた関わり方に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に出張理美容室を利用し散髪や毛染め、パーマ等本人の好みに合った身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事担当職員が、入居者の好みの物を取り込み献立を作成している。一人ひとりの状態に合わせた食事形態で提供できるよう、介護食も取り入れている。個々の能力に応じ後片付けと一緒にやっている。	食事担当の職員が献立を作成している。野菜などの頂き物も多く食材として利用し、敬老会や雑祭りなどは出前を取り寄せたり、個々の状況に応じて介護食も取り入れている。利用者は職員と一緒に後片付けを行い一日の活動の一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事提供量の工夫や飲料を嗜好品にする等、必要量を確保できるよう支援している。食事形態や水分形態は個々の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床時に口腔ケアを行い清潔保持をしている。一人ひとりに合った口腔ケアの方法で実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握を行い、出来る限りトイレで排泄ができるよう時間ごとのトイレ誘導を行っている。	日中はトイレでの排泄を基本としている。管理者と職員は利用者一人ひとり排泄パターンを把握してさりげなくトイレ誘導し支援している。夜間は安眠を優先してオムツやポータブルトイレの使用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には乳酸菌飲料や、オリゴ糖の摂取を促している。散歩や歩行器などで日常的に体を動かす機会が増えるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めず、個々のその日の体調や気分に合わせて入浴できるようにしている。会話をしながら入る等楽しく入浴できるよう支援している。	週2回以上入浴が出来るように時間を決めずに利用者の希望に合わせて支援している。楽しく入浴出来る様に入浴剤の使用や好きな音楽を流したり、利用者の希望で同性での入浴介助など個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じて、良眠を得られるよう寝具や衣類の工夫、室温等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を保管し、薬の目的等について理解し、服薬の支援をしている。服薬中の症状の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、一人ひとりの能力に応じ家事や散歩等の役割や気分転換、趣味活動等の楽しみごとが行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生活歴や、関わりの中で得た情報から、個々の出かけた場所を把握し、個別外出を行っている。	お花見などの年間行事の他に近くの神社のお祭りなどの外出支援をしている、買い物希望の利用者には病院受診の帰りに対応し、日常的に職員同行で事業所周辺を散歩し広大な田園風景などを見て季節を感じている。ウッドデッキでおやつを食べるなど外気に触れる機会も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の可能な方は少額の金銭を所有している。希望時は近所のコンビニに職員と一緒に出掛けて、買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時は家族や親類等に電話をかけて関わりがもてるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、歩行できる方、車いす使用の方共に移動しやすいように広くとってある。エアコン、加湿器にて温度や湿度管理をし、レースのカーテンにて採光を調整し快適に過ごせるようにしている。ソファやテレビを置き、団欒できる場所を作っている。	平屋造りの建物で事務室が中央にあり左右対称にユニットがある。共有空間は大きな窓からのやわらかな日差しが入り広くゆったりとして利用者はそれぞれお気に入りの場所で寛いでいる。清潔感もあり季節の装飾や利用者の笑顔の写真などが飾られてあり居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には一人で過ごせる椅子や利用者同士と一緒に過ごせるソファや食卓を設置し、その時々で思い思いに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、家具や日用品等は使い慣れた自宅で使用していた物をできるだけ持ち込んで頂いている。好みの物等を飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。	各居室には在宅当時の馴染みの家具や日用品が配置され、思い出の人形や家族の写真などもあり一人ひとりが居心地よく過ごせるような居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを必要な場所に設置し、安全に生活できるようにしている。居室やトイレに目印をつけ、テーブル等は車いすの方でも使いやすい高さになっており自立した生活が送れるよう工夫している。		